

# ARTUS

伝統的工芸品 二風谷アットゥシ



# アイヌ文化の 息づかいを 織り込んで

アットゥシは、アイヌ文化に受け継がれてきた樹皮による平織の反物です。反物から仕立てた着物もアットゥシと呼ばれます。そうした技法と素材利用を継承した伝統的工芸品が「二風谷アットゥシ」です。

アットゥシの素材は、オヒノヤシなどの内皮から作られた糸。沙流で培われてきたアットゥシ製作は、近代以降のアイヌ工芸における主要品目として重宝され、昭和44年の「アットゥシ織物生産組合」（二風谷で組織された任意団体）の設立へとつながっていました。戦後の地域振興にも貢献し、今なお生き続ける伝統工芸技術が二風谷にはあります。

すべての工程は、大自然と人の手の関わりの中にあります。豊かな森と、森に寄りそって暮らす人間

## 二風谷アットゥシ

NIBUTANI  
ATTUS

の営みが育んできたアットゥシは、自然と人間との長い交わりそのものが織り込まれた工芸品だといえるでしょう。

アットゥシの特長は、丈夫で水にも強く通気性にすぐれていること。そして長く付き合うはじけになじんでくる、天然繊維ならではの風合いが魅力です。二風谷アットゥシは、2013年の3月、二風谷イタと並んで、経済産業省の「伝統的工芸品」の指定を北海道の産品としてはじめて受けました。

アットゥシは、北海道の各地で作られ、その中でも道東や道北、胆振、そして二風谷が位置する日高の沙流川流域などが、江戸時代に産地として知られていました。沙流川流域が産地として文献史料で最初に見られるのは、18世紀はじめごろになります。アットゥシは丈夫で水にも強いところから、二風谷の漁場や、本州と蝦夷地（北海道）を行き来した北前船の船乗りたちの仕事着としても愛用されました。この布は交易のための産物としても知られ、本州以南にも流通していたのです。歌舞伎にも、役者がアットゥシを着る演目があります（『天竺徳兵衛轉筋』）。

熊鷹のペラ（へら）  
1884年 沙流収集（北海道大学植物園・博物館所蔵）

樹皮の反物 1879年 沙流収集（北海道大学植物園・博物館所蔵）

# 二風谷 アットウシ

NIBUTANI  
AT TUSI

道内各地の製作地はその緩きさまざまな変遷をたどり、二風谷では現代まで技術と伝統が地域の工芸復興の中で継承されてきました。江戸時代にはすでにアットウシの反物が、すぐれた産品として重要視されていたことが文獻からわかります。1878(明治11)年にここを旅した英国の旅行家イザベラ・バードは、著書の『日本奥地紀行』でこの地のアットウシのことにふれており、北海道の物産の産出状況をまとめた『諸物産表 明治十三年明治十四年』にも、沙流川流域でさかんにアットウシが織られていたことが記録されています。また1881(明治14)年に発表されたオーストリアの外交官・考古学者ハインリッヒ・フォン・シーボルトの『蝦夷島におけるアイヌの民族学的研究』にも、現在とはほぼ同じ織機のべらべらが記録されています。さらに、米国シカゴ大学の人類学者フレデリック・スターが収集したアイヌ工芸品に沙流川流域のアットウシが含まれていたことが、1904(明治37)年の記録から見とれます。

織りは女の仕事ですが、山に入つて良質の素材を調達してくる男たちとの協働も欠かせません。かつては、樹皮に限らず衣食住の生活資源を代々採取する場(イウオロ)が集落ごとにより、人々はそうした自然空間を大切に守り伝えてきたのです。

時代が大きく下つて1960年代から70年代、日本経済の高成長期には北海道にも観光ブームが起こり、全国からたくさんの観光客がやってきました。二風谷では毎日たくさんのアットウシが織られ、糸づくりや糸のばしを手伝う子どもたちの姿が日常の風景を形づくっていました。この時代に現在の織り手たちは伝統の技術を上の世代から引き継ぎました。

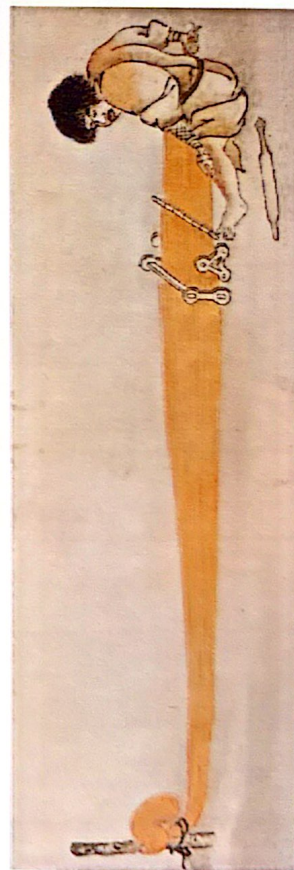
二風谷では、いまでも百年前と同じ様式の道具を使い、二風谷民芸組合が中心となつてアットウシの技術の継承と製造販売が行われています。

着物や帯にとどまらずアフリック素材としての二風谷アットウシは、ファッションからインテリアまで、現代の私たちの暮らしのさまざまな分野で活用されています。抱合にも、伝統では生成りのそく

が中心でしたが、現代の作家たちは自然の草木からさまざまな彩りを取り出しています。

「伝統的工芸品」の指定を受けたいま、二風谷アットウシに関わる人々は、先人たちが積み上げてきた伝統を大切に守りながら、さらに多彩な分野にも表現領域を広げ、この布ならではの魅力を皆さまに感じていただくことを願っています。

織機(ウオサ) (おさ/上) とべら(へら/下)  
1881年 沙流川流域(北海道大学植物園・博物館所蔵)  
※こうした道具を製作する技(わざ)も男たちに伝えられている



桑徳丸(はたかりきまる)「蝦夷生計圖説」(19世紀初頭)より



剥がしていい。

5 内皮を剥く



をきれぬにいまする。  
 沢なとで洗つて内皮  
 ぬめめを取りためるに。

4洗5



3 樹皮を加工

### 3 樹皮を加工



ねいに剥がしていく。

## 2 荒皮を剥く



倒枯に立つて行つても多い。

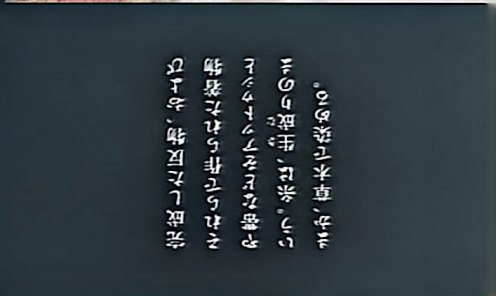
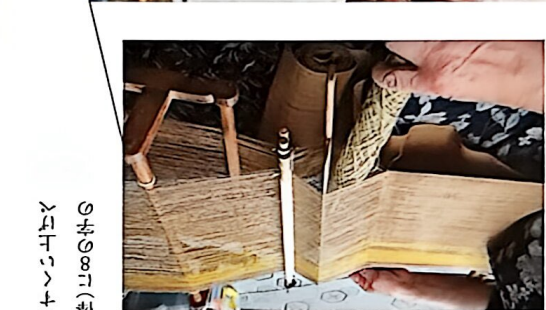
を立ち立たぬために、雨の危ない時、木は水を多く含み、上から剥がれ落ちて、幹に入ると、目切れの下で、

↓ 樹皮を剥く



作業工程

風合スツトウカニツキマシ

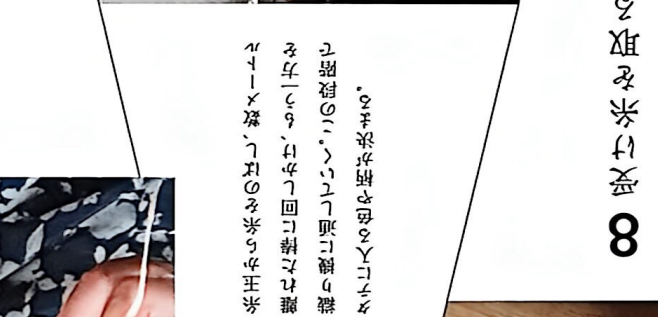


スライムで(から)締め始める。  
に縦糸も上下とせよ、  
横糸を通す一回と  
したいに横糸を通す。  
下に分けた縦糸の上  
スライムによって

7 運多機 6



8 受け米を取る (機械織り)



タテテ入に色や柄が決る。

7. 10. 06



9 糸をつる  
内皮を裂き

る機<sup>ハ</sup>結びて糸をつないでいく。  
けなが結び、糸を小さくす  
さ裂き、その糸に接<sup>ツ</sup>き、細  
指先を使って内皮を一定の細



貝澤 雪子

子どものころから糸と織りが大好きで、仕事を離れても糸にこだわっていたのです。山に入り、森の草木から新しい彩りを取り出すことも喜びです。

北海道沙流郡平取町二風谷  
TEL.01457-2-2584



貝澤 かつえ

子どものころから、母や祖母の手仕事にあこがれていました。身につけてくださる方の気持ちが豊かになるような作品を、と願って作っています。

北海道沙流郡平取町二風谷  
TEL.01457-2-2559

## 二風谷アットウシの



二風谷工芸館

〒055-0101 北海道沙流郡平取町字二風谷61番地6号  
(平取町アイヌ文化情報センター内)

## 作家たち

作品のお問い合わせ・ご購入は、  
各作家または二風谷工芸館で承ります。



TEL.01457-2-3299 AM9:00~PM5:00  
休館日 年末年始(要問合せ)



藤谷 るみ子

親から受け継ぎ、反物を織り始めてから半世紀以上が経ちました。出会ったお客さまと長くお付き合いしていきたいといつも思っています。

北海道沙流郡平取町二風谷  
TEL.01457-2-3408



関根 真紀

長く何度もお付き合いができるように、使ったり身につけてもらう方のことをいつも考えて仕事をしています。それがアイヌのものづくりです。

北海道沙流郡平取町二風谷  
TEL.01457-2-2145

# 二風谷を歩く



## 1. 平取町立二風谷アイヌ文化博物館

沙流川流域で営まれてきたアイヌ民族の歴史や文化を紹介するミュージアムです。コレクションは衣類や住用具、狩猟・農耕具、祭具など幅広い分野に及び、近・現代のアットゥシの展示もご覧いただけます。

北海道沙流郡平取町字二風谷55番地  
TEL.01457-2-2892



## 2. 平取町アイヌ文化情報センター

現代のアイヌ文化を発信する拠点です。二風谷在住作家の作品が、センター内の二風谷工芸館に展示されており、購入もできます。また工芸館では、一流の工芸家の指導を受けながら木工や刺繍などの実習体験が楽しめます(予約が必要です)。さらに図書閲覧コーナー、AVコーナー、アイヌ文化に関する書籍販売コーナーなどもご利用いただけます。

北海道沙流郡平取町字二風谷61番地6  
TEL.01457-2-3299

## 5. 旧マンロー邸

医者であり考古学・人類学の研究者であった英国人ニール・ゴードン・マンロー(1863～1942)は、アイヌ文化の研究のために二風谷に移住し、医者として奉仕活動にも生涯を捧げました。その住宅兼診療所だった建物です。

北海道沙流郡平取町字二風谷  
※館内見学は二風谷アイヌ文化博物館へ要相談  
(10名以上、1ヵ月前まで)



## 3. 沙流川歴史館

二風谷ダム建設工事にもともなう発掘調査で出土した土器や石器など、さまざまな考古学資料が展示されています。沙流川流域の太古からの営みと自然環境を知ることができます。

北海道沙流郡平取町字二風谷227番地2  
TEL.01457-2-4085

## 4. 萱野茂二風谷アイヌ資料館

二風谷に生まれ育ったアイヌ文化研究者、萱野茂の個人コレクションを公開しています。展示は世界各地の先住・少数民族の生活・工芸にも及びます。ナセ(伝統家屋)をはじめとする野外展示などもあります。

北海道沙流郡平取町字二風谷79番地 TEL.01457-2-3215



高野 啓子

昔のフチ(おばあちゃん)たちの仕事を、心から尊敬しています。伝統を深く学びながら、それらを正確に再現していくことに取り組んでいます。

北海道沙流郡平取町二風谷  
TEL.01457-2-3397  
01457-2-3585

## 二風谷アットゥシの作家たち



貝澤 美雪

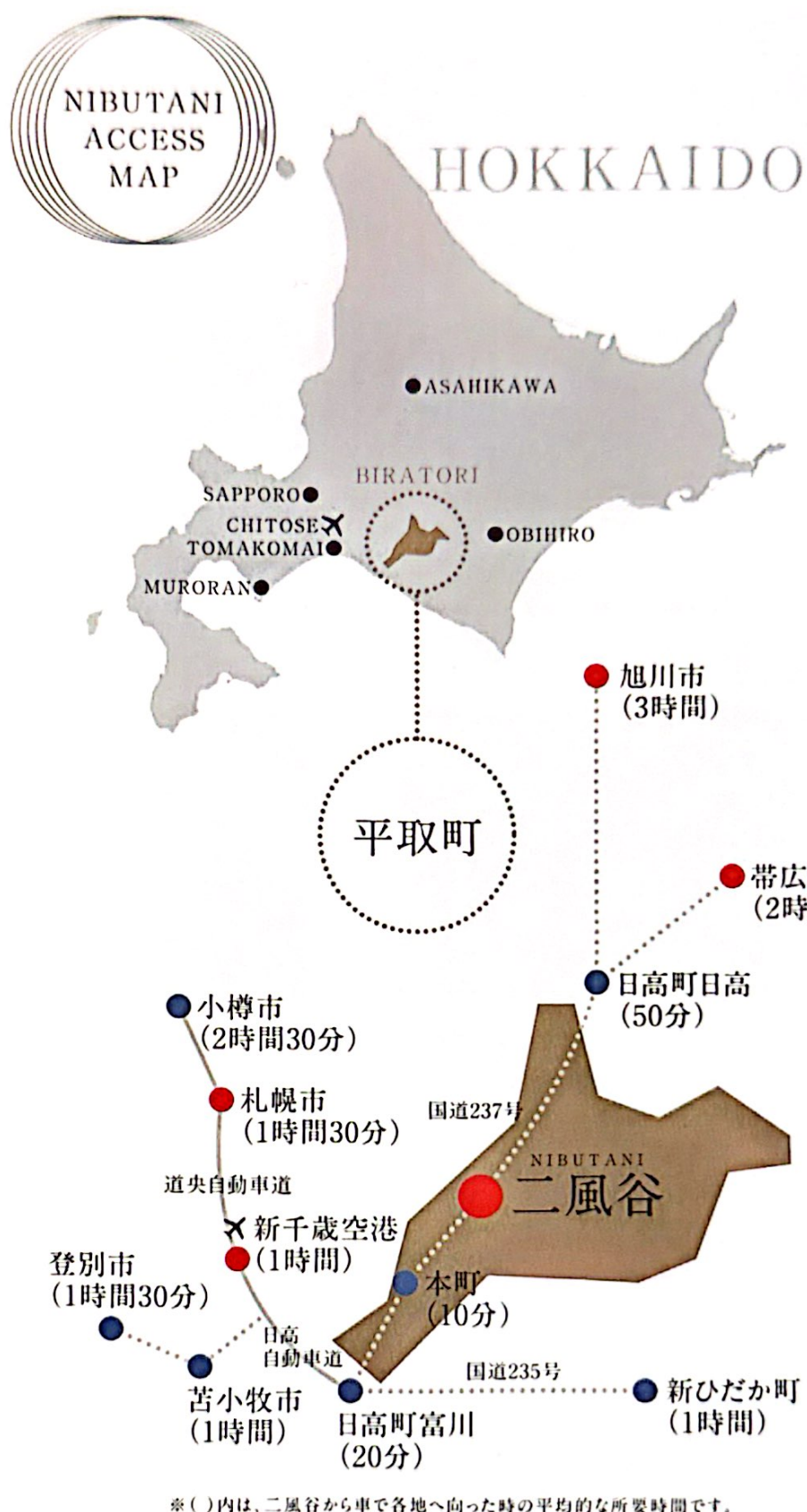
デザインのベースは、二風谷の伝統です。織りや刺繍はとても時間のかかる仕事。だからこそ、ひとつひとついいに仕上げたいと思っています。

北海道沙流郡平取町二風谷  
TEL.01457-2-2584



# 伝統的工芸品とは

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」(1974年制定)にもとづいて経済産業大臣により指定された、日本の伝統工芸品です。指定を受ける産品は「製造過程の主要部分が伝統的技術または技法によって製造された、日常生活の用に供されている工芸品であること」や、「伝統的に使われてきた原材料をもとに、百年以上にわたって地域が産地となり、手工業的に作り続けられていること」という要件を満たしています。



## 二風谷民芸組合

〒055-0101 北海道沙流郡平取町字二風谷61番地6号  
TEL.01457-2-3299(二風谷工芸館)